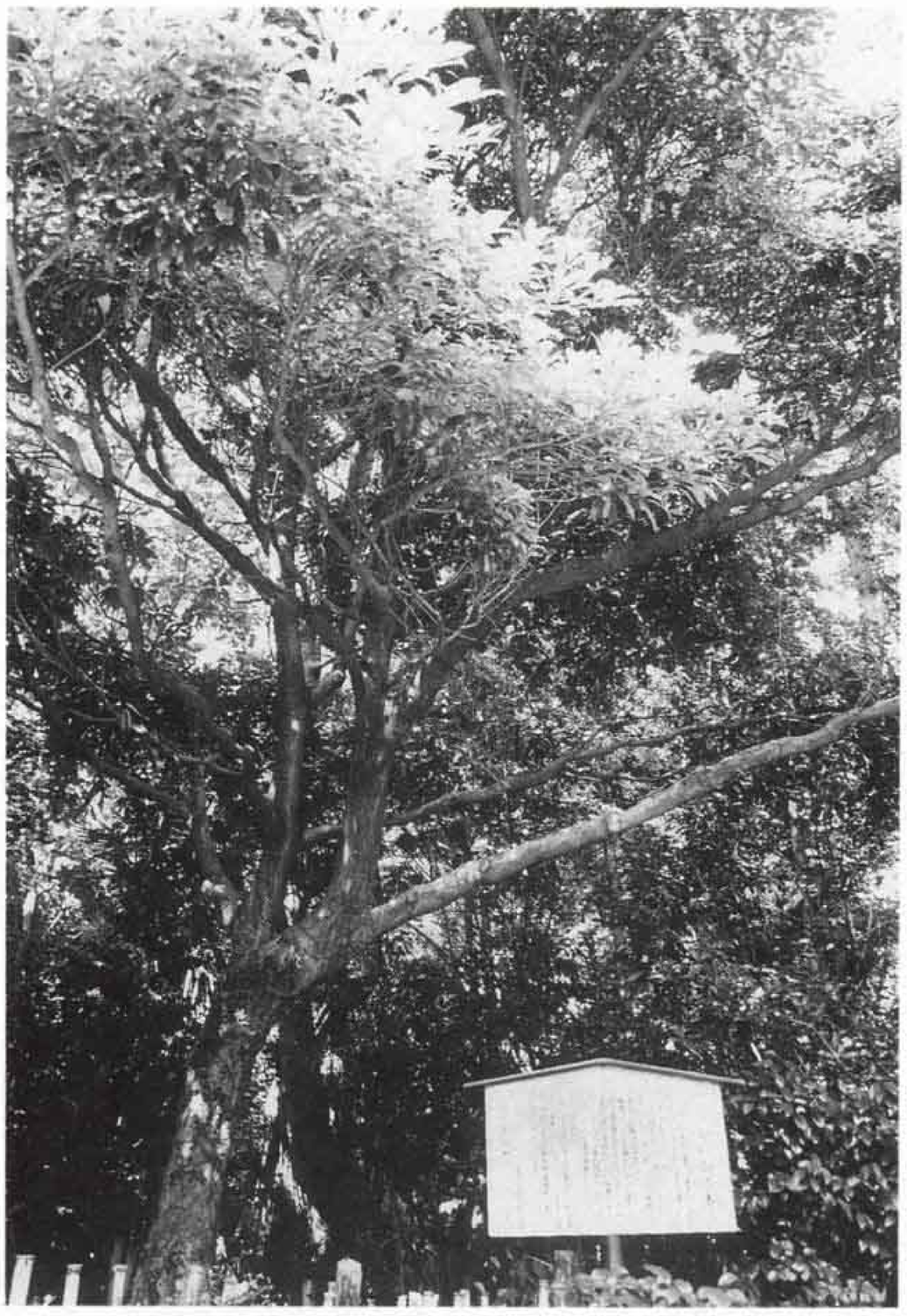
富士の民話 あれこれ

からかさ木

丘地区の傘木(からかさぎ)町内に、「からかさ木」と呼ばれる木があります。

木が立っている場所は、巻狩りで訪れた源頼朝(よりとも)が、木を傘がわりに雨宿りした所だと言われており、地名の由来にもなっています。

今回は、からかさ木を管理している望月忠男さんから、お話を伺いました。



鎌倉時代、源頼朝は、富士山のふもとで巻狩りをよく行いました。巻狩りとは、けものを四方から取り巻き、捕らえることから、そう呼ばれています。

巻狩りの途中、たくさんの家来を連れた頼朝が、ある村落に入りました。すると、空が急に曇って、雨が降ってきました。

たまたま近くに大きな木があり、頼朝はその木の下に駆け込みました。まるでからかさのように枝を広げた木は、人が雨宿りするのに好都合の木でした。

頼朝は、そこを通りかかった年寄りに、

「この村の名は、何と言うのか」

と尋ねました。すると年寄りは、

「この村には、まだ名前がついていません」

と答えました。そこで頼朝は、

「この木は、からかさのかわりになってくれた。村の名は、これから『からかさ木』としたらどうじゃ」

と言いました。

年寄りは早速、村人にこの話をしました。そして、この日から村の名は、からかさ木村と呼ばれるようになったのです。

昭和四十一年の台風二十六号で、先代の木は倒れてしまいました。今の木は、先代の根元から生えていた四代目なんですよ。

この木はタブの木といって、枝が自然とからかさのように広がります。以前は、このあたりにも多く生えていて、製紙の原料としても使われていたそうです。

「からかさ木」は、伝法の一万歩コースのポイントにもなっていて、最近は訪れる人も多くなりました。

望月忠男さん（傘木）

こちら編集室

故・鈴木孝教(たかのり)君をしのぶ

8月に東名高速のバス事故で亡くなった大渕公民館職員の鈴木君は高校の同級生。市役所では最初に福祉関係の同じ職場へ配属され、ともに酒を飲んでは富士市の福祉と未来へかける夢を語り合った。

公民館での彼の活躍は、まるで水を得た魚のようだった。常に斬(ざん)新な企画を打ち出し、地域の生涯学習の発展に力を尽くした。

彼は、我ら凡人の倍以上のスピードで人生を駆け抜けていった。僕は、いつも彼を目標にしていたのに…。鈴木孝教君のご冥福(めいふく)を心からお祈り申し上げます。（江村）

人　口　233,178人
男　116,310人　女　116,868人
世　帯　73,572世帯　（8月1日現在）
発行・編集　富士市総務部広報広聴課
富士市永田町1-100　☎51－0123

広報ふじは再生紙を使用しています